

会 議 録

件 名	柱本小学校・三石小学校保護者説明会・意見交換会（第2回）
日 時	令和7年2月1日（土）午前10時10分から午前11時15分まで
場 所	教育文化会館3階第1研修室
参加者	保護者 4名（家庭数 4） 今田教育長、簗下委員、岡教育部長、阪口参事、丸山教育総務課長、 東学校再編推進係長、東川、中山

教育長挨拶の後、資料説明、質疑応答、意見交換になりました。

なお、出席した保護者には、資料と合わせて、意見等を記入できる二次元コードを用意しました。欠席した保護者にも二次元コードにて、資料を閲覧、意見等を記入できるようにしています。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1－1. いろいろと学校のこと考えてくださってありがとうございます。スクールバスの件なんですけど、2km程度ということ聞いた感じでは、うちは紀見ヶ丘なんで2.1kmです。友達の家だったら1.9kmでどうなるんやろうという話をされていて、2km程度ということで、バス出してくれるのかということ合っていますか。

（教育委員会）

2km程度というのは、2kmで割るのではなく、紀見ヶ丘の地区にお住まいのお子さんという形でバスの対象と考えています。実際、紀見ヶ丘からは南海林間バスが走ってますので、このスクールバスというのは、路線バスの活用も含めて考えていますので、ご理解いただきたいと思います。

1－2. そのバスを使うということで、ちょうど幼稚園バスで年中の子が通っているんですけど、それは私がバス停に送って行って、添乗員の先生がいて、園に着いたら、先生が待っていてくれます。うちは6年生4年生になってるので、1人で行けるのかなと思うんですけど、やっぱり1年生の子だと、1人で行くことが難しいのかなと。あと、寝て帰ってくるとかがあるので、乗り過ごしとか、忘れ物とかあると思うんですけど、そういった添乗の方が乗っていただくことは可能ですか。

（教育委員会）

添乗となりますと、未就学のお子様を対象にこども園のサービスがあるんですけど、小学生となりますと、乗降するときの協力者を、これからいろんなところでお話しさせてもらう形にはなるんですけども、添乗となりますと話し合いの経過によって、ちょっと厳しいところがあるかもしれません。ただ、低学年の子供だけでバスを乗るというのは、最初は協力を

いただきたいところもありますので、関係者の方といろいろ考えていきたいと思います。

1－3. あともう1つ、紀見ヶ丘でいうと、紀見ヶ丘南がうちの近くのバス停で、行きは渡らなくても乗れるんですけど、帰り反対車線なので渡って帰ってくることになるんです。幼稚園バスは、渡らなくてもいいようにしてくれています。死亡事故も何年か前に起こったので、その歩道のところを渡るのが怖いなと思っているので、またルートとかも安全第1で考えてもらえるとうれしいと思います。

(教育委員会)

貴重なご意見ありがとうございます。どうしても勾配があるんで、下りの車とかスピード出ている現状は、私たちも把握しています。そういうところも含めて、いろいろ検討させていただきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

2－1. 2回ぐらい参加させていただいています。そこで意見を言わしてもらってるんですが、この状況で、これらも含めてパブリックコメントという話なので質問します。あくまでも統合ありきという話で進んでいると思うんですけども、文科省のホームページの中に適正化に関する手引きがあると思います。多分、皆さんご存じだと思うんですが、平成27年に作られたものがあるので、新しいものはないのかなあと思うんですが、その手引きによりますと、基本的には統合ありきではないんですよね。もちろん統合もある。例えば、廃校を開校するのもある。いろんな方法があります。あくまでも、目的はどんな教育をしていくか、どんなふうにしていくかが目的であって、そこに対して、統合もあれば、そのままやること、或いは、閉校、休校してるところを開校することもあるというような手引きになっていると思うんですね。それで、今、橋本市さんが示されている案は、全てにおいて統合ありきで、統合の方向でされているというのは、何かこの手引き、この方針を踏まえた上で、やはり統合というのが何か、これからある橋本市の教育の方針において、そういうことが合致したということでしょうか。

(教育委員会)

13 ページのところに学校規模の確保により高めたいというのが示させてもらっているんですけども、出生数を見込ませていただいた場合、特に柱本小学校区で、今年、生まれたお子さんの数は急激に下がってきて、このまま手を打たずにいきますと、1桁のクラスが存続する。小規模のクラスの学校運営を否定するわけじゃないんですけども、我々が学校で取り組んでいくことを望むとするならば、やはりクラスにおいても、一定の規模というのを目指して、学習環境を今よりも高めたいというのがあります。取組の幅を広げて、豊かな学びの場を作っていきたいというところがありますので、担任の先生から教えていただく学校教育だけじゃなくって、子供たちのコミュニケーションや学び、対話からですね、この成果を学ぶという関係も非常に大事と考えていますので、こういう規模を確保するというところで、再編等を進めたいと考えています。

2-2. 先ほどもおっしゃってました2学級という話になってきます。2学級以下になってくると統合も含めて考えるということになっているという話でした。こういって、小学校だけの話になると思うんですけど、これは基本的に中学校の話にも直結するんですね。基本的には紀見北中学校には柱本小学校と三石小学校があると、それが1になる。そうすれば、基本的にパイが少なくなるんです、基本的に。上がる人数が確実に減っていきます。減っていくと、中学校でさえ2学級にならないことがあり得るわけですよ。もう10年前に、実際、紀見北中学校を休校するという案も実際ありました。実際あったけどもそうじゃなくなったというのはあるんですが、基本的にこのまま行くと日本の人口は減っていくわけでしょ。小学生も減っていくわけです。減っていく中で、この方針だけでいくと、この方針が変わるかもしれませんが、方針だけでいくと、中学校も基本的には統合していくという方向になるんじゃないか、そういう危惧は持ってます。それはどう思われますか。

(教育委員会)

将来的には市内の5校を4校にというのは持っているんですけども、まず今回に関しては小学校のみの方針としています。ただ、子供の数は非常に大事になってきますので、そういったところは推計を踏まえて、将来的なところは忘れずに考えていく形になります。

2-3. ありがとうございます。もちろん児童の数も考えないといけないと思うんですけど。統合するときに、私は統合には反対なんですけども、もし統合するならこんな教育をするから統合するというんだったら、ある程度理解得られると思うんですね。例えば、小中一貫校にする。例えば、もっと進んで義務教育学校にする。実際、学校教育法にはありますように義務教育学校、和歌山県には1校しか実際ありません。和歌山市にネットで調べたら出てきますよね。そういうような特別な学校するので基本的に統合します。そういう話なら基本的にはこの適正化には対応するんじゃないかと。今の橋本市さんの話だと、あくまでも児童数が減るから統合しますよって話になってくるんですけど、そうではなくて、こういう教育をする、こういう高い教育をするから、基本的に統合したいんだっていうふうにして欲しいんですね。基本的に、私の子供含めてこれから大変な時代になってくると思うんですよ。自分らの時代ではないです。5年後、先がどうなるかわからないです。そんなときに、それだけの教育を与えないといけないわけじゃないですか。今回の共通テストにも情報が入ってます。情報が入るというのは、そういう情報が最低限のツールとして必要だということですよ。私たちのときは英語でした。英語も読み書きでした。読み書きさえわかれば、基本的には社会におけるツールであった。それが、しゃべらないといけないですよとなってリスニングも入りました。だからリスニングは絶対必要でありました。情報が入ったことは、それだけの情報の教育も必要ということで入ってるわけですよ。だから、なるべくそういう教育を充実していかないと、子供たちがこれから大人になって、日本を支えていく上において絶対必要だということだと思うんですよ。それだけの教育を小中学校の間にしていきたいと思うんです。それをやっていく、で、それが日本人、別に

何か橋本市で住むかどうかわかりませんが、日本に何かいいことによって、日本を支えていくんですよ。もう世界に行こうが何しようがね、まずは人を育てないといけない。そのときにどういう教育をするのかというのをきちんと考えた上でやっていかないと、子供が減るのは当たり前なんで、それは公共として別にお金の問題じゃないんですよ。公共はお金がないことでもやらないといけないんです。だから、やるんだとしたら、そういう教育を含めてやっていただきたい。公立でもそういう教育をやっていただいでですね、ちょっと話長くなるんですが、例えば、大阪府は私立学校無償化にしていますよね。県外も無償化にしたので、今、この近くの智弁とか開智とかもそうですけど生徒数が増えてます。大阪から受けに来るから私立が人気あるからということで上がってきてますよね。だから、橋本、大阪の方でもテレビの情報ですけど、私立学校に行くと思わなかったと。だから3割ぐらいが私立学校になったと。公立学校つぶさないといけないという話になるわけですよ。でも、和歌山県の方ではまだ、小中一貫校で人気はありますけど、それは私立の無償化されてないからです。国と交渉してますよね、私立の無償化もして欲しいというて話をね。それはもしかしたら国もそうするかもしれないとなったら、和歌山県も私立を無償化しないといけないとなる。だったら、多分みんな私立入れると思うんですよ。私も入れますというのは、それだけの教育が私立はできるからですよ。そうなったときに、絶対、中高一貫校にいるんですよというのは、中高一貫校では、私立の場合やったら、5年生までの間に6年生までしておくことをしておいて、6年生のときには大学へいくための試験をさせるわけですよ。だから基本的にはそういう方向でやって欲しいと思うから、ほとんどがそうなった場合に、多分、中学校の人数が減るわけですよ。柱本、三石とかそういう結構富裕層のあるところ、橋本市でも結構、富裕層が居てると思うんですけど、そういうところでも、それが減っていくわけですよ。そうすると、基本的に中学校に行く生徒も基本的には減っていくと思うんですよ。でも、それに負けないような公立の中学校、小学校を作っていっておかないと、多分、成り立たなくなると思いますよ。橋本市さんがもしやれるんやったら、基本的にはそういう何か。私は思うのはそれなりのというか、教育を受けさせてあげないといけないと思います。だって、日本の強さはそれですもん。明治維新のときになぜ強かったかといえば、そのうちに読み書きそろばんができるような、そういう一般の市民が6割7割おったと。そういう何か、そういう人のことで、それでなんか明治維新ができたんですよ。日本の強さそれですよ。それが、富裕層だけがそういうふうになってしまったら、日本の未来はないと思います。特に子供が少なくなっていく中で、それをやっていこうと思えば、公立も強くなっていけないと。そのための教育をどうするのかということも含めて、この統合を考えていただきたいなと思います。

(教育長)

ありがとうございます。まさにそのとおりだと私も考えています。その中で、今提案いただいたような小中一貫校とか、義務教育学校という言葉は出ていませんが、8ページをご覧くださいと思うんですが、今、日本の子供たちに欠けている力というのが、世界的な調

査によると主体性、それと自分で物事を決めて考えて、そして行動を起こして、社会貢献をする、社会を動かそうとすることができる意識を持つ子供の割合が、極端に低いのが日本の子供たちの現状です。18歳の意識調査が行われていて、これ2019年のデータなんですけれども、それによると、まさにそのところは極端に落ちています。それで橋本市教育委員会として考えていることは、そのあたりのことをしっかり小学校の1年生から中学校3年生まで9年間の中で、段階を経て力をつけていくための取組をしていきたいという思いを持っているのが、ここにわかりやすい言葉で書いているんですけれども、その思いを持っています。そのことに対して、小中一貫教育とか義務教育学校という表現はしていませんが、私は小学校、中学校に訴えているのは、9年間の学びのストーリーを持って、中学校区ごとに特色ある取組をしていくこと。今、その策定をしまして、大体の計画ができつつあります。今回、橋本市の新しい学校づくり推進計画の中では、そのことをきちっと示していきたいと思っています。子供たちに具体的な机上の勉強だけではなく、実際に社会課題を解決しながら、いろんなことを解決するために、いろんなことを調査しながら、学校だけではなく、いろんな人たちとそのことを話し合いして、解決していく、そしてそのためには自分が行動していく、そういう子供を作っていきたいと思っています。以前に、橋本市は小中一貫教育ということを言っていました。これはどちらかというと、形式的なところが入っていた部分はあります。けれども、私が話してることは、まさにこれは小中一貫教育の流れを汲んだ取組として、形にしていきたいとそんなふうに思っているところです。義務教育学校という形はとりませんが、やっぱり私たち、小学校から中学校9年間預かっているものとして、そのところをしっかりと力つけていけるような、中学校区ごとの取組というのをしっかり示していきたいと思いますので、その時にはまたご意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

2-4, ありがとうございます。考えていただいてるということなんですね。うちの息子も中学校に上がりますので、基本的には小学校は関係ないんですが、実際、柱本の住民として、ここは教育の場なんで、別に住民の話はしなくてもいいんですが、基本的に言うと、手引きの中にも、基本的の地域の住民との協議も必要ということで、コミュニティスクールですか、何ていうんですかね、学校、忘れましたがありますよね。そういう中でということなんですけども、なんかコミュニティスクール、ちょっと名前忘れちゃった。もし統合するならですね、柱本の住民を入れていただいてですね、やっていっていただきたいと思うんですね。もちろん、教育長さんが言われたとおり、そのような教育、その方針を、今の状況に問題意識を持たれて進められているということで、そういう感じで進めていただいたらと思うんですね。私もずっと公立できたものですので、公立のなんかいろんないいところもあれば悪いところもある。もちろん人間もそうですけど、いいところもあれば悪いところもある。だからその中で、より良いところを伸ばしていくというのが一番いいのかなと思うんですね。子供の方も、公立のいいところもあるんですけど、もちろん私立の

いいところもあると思われます。だからその中で、それを補完しながらやれたら一番いいと思いますし、全体的に、全ての子供の教育が上がればなっているのは一番あるんですよね。やっぱりなんかそういうところは先生頼みになってしまうところもあると思うんですけど、義務教育学校と言ったのは、義務教育学校を知ってるわけじゃないんですよ。ホームページで見ただけなんですけど、先生というのは、和歌山県にやったら、県教委が全部選んで来るわけですよね。普通の小学校でも3年経ったら異動になるんで、違うところに行ってしまうと、例えば、義務教育学校があれば、義務教育学校のための先生を何か雇うとかできるというのは、何か聞いたことあるんですよね。だから義務教育学校にあなたは入るんですよという意識を持った先生に入っていて、そのための教育をしてもらえば、教育長さんがおっしゃったようなことも、何かできるんじゃないかなと。ちょっと3年ではなくて、多分3年ではできないと思うんですよ。人がそこに行ったらね、それを6年でも10年ぐらいまでもいて、そういうことなんか腰をすえてやっていただければ、一番なんか子供にとっていいんじゃないかなとそんなふうに思います。

(教育長)

ありがとうございます。小学校は小学校、中学校は中学校、そのようなブツ切りで物事を考えていくことは、すごくもったいない話だと私も思っております。だからこそ9年間の学びをきちっと中学校区ごとで話し合って、カリキュラム化していくことを大事にしたいというふうにお話させていただきました。どこの中学校区においても、このことについては、もうすでに話し合いを複数年重ねてきています。そして、橋本市の長期総合計画の中にも重点プロジェクトの1つ目として、まち全体で子供を育むということがうたわれています。その中で、地域全体で子供を育てる体制づくりもうたわれています。実際に、このことで行っていることは何かというと、先ほど触れていただきましたコミュニティスクール、学校運営協議会を全ての学校で組織し、どういった教育をするんだということを委員の皆様方に提示してご意見をいただき、それで承認してもらった上で学校運営を進めているところです。加えて、共育コミュニティという中学校区ごとの取組も行っていて、学校だけで子供を育てるのではなく、地域のいろんな方に学校に入っていて、子供を育てる、実際に活動するような取組もしていただいています。紀見北中学校区で言いますと、一番わかりやすい例で言うと、全ての学校が関わって、これは園も含めてなんですけれども地域清掃をやってれています。これは、全ての園から中学校までの子供たちと、そして地域の方々が地域をどんなふうにしたいという思いのもとに進めています。そういった活動に触れていくことも1つの例かなと思います。学校は学校だけという時代ではなく、地域一体となって進めてもらう。学校が2つあったところが1つになっても、やっぱりその全てのエリアを含めた地域づくりも大事にしていきたいと考えているところです。絶対に私は、9年間の学びを途切れられないような、そんなカリキュラムづくりを今後も学校に求めていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

2-6. ありがとうございます。教育が一番大事かなとは確かに思うんですよね。結局まちづくりにも関係があって、何か今、国は観光立国とかっておっしゃってますけど、日本は観光立国ではないです、産業立国と僕は思っています。それだけの民間企業があって、そういう何かこう企業があるわけですから、それが何かの国のもとを作っていると思っているんですね。橋本市さんもベッドタウンで始まって、人が増えていたと思うんですけど、今からはそんなことはありえないです。大阪でさえ人が減っている中でも、大阪の方に人が集まっていく。大阪がそういう私立の無償化もやっているからファミリー層も行ってしまうというような感じになっていっていると思うんですね。そういう、教育で人を育てることによって、新しい何か産業を呼んできていただいでですね、幾らでも浮いてる土地があるわけですからそこに呼んでいただいて、それをしようと思ったときに、そういう教育をしているということが武器になるんじゃないかと思うんです。企業を誘致すればいいんじゃないかなと、ちょっとここには関係ないですけど、それだけの人が育っているんだったらいいと。例えば、この間、台湾の方の企業から開きましたけど、それは日本人はもっと働くと思っていたけど、働けへんかったみたいなことをおっしゃったりとかしてるわけですけど、なかなか、もし台湾企業とかもいい企業ですけども、そういう企業は来てもらうときに、これだけ、なんか橋本市は、教育のなんか日本人を育てて、こういう何か人がいてるんですよというときに、やはり呼びやすいんじゃないかなと。それはあるかどうかは別にして、他の何か日本の民間企業も別にして、もし何かそういう人が育っているということになれば、多分何かそういう企業も来ていただけるんじゃないかなと思うので、是非とも頑張りたいと思います。

説明会に出席していただいた保護者の皆様から意見書に記入いただいた意見、並びに欠席された保護者から提出いただいた意見の内容です。

なお、返答を希望している意見に対しては回答を記載しました。

3. (二次元コード)

この方針は、そもそも誰がどうやって、決めたのでしょうか？現場の先生や小学校の子供たちの意見は聞いた上での決定でしょうか？もし、聞いていないのであれば、すぐさまアンケートとってください。一番大事な事は、子供たち自身がどう思っているか、先生たちがどう思っているのかだと思います。ここで、意見が言えない状況だとしたら、それこそ自分の頭で考えられる人材は育てられないと思います。

4. (二次元コード)

仕事の都合で説明会に参加できず、配布していただいた説明会資料を拝見しましたが、疑問や不安が拭いきれません。娘は現在の学校が大好きで、その学校がなくなることへのショックが勝り、統合で希望を持つよりさみしいという印象を抱いているようで、親としても悲しく思っています。また、私自身も柱本小学校を卒業しているので「母校」というものがなくなるという寂しく、残念な気持ち、なんとか残してほしいという思いがよくわかります。以上が私の意見ですが、お答えいただきたいものが3点あります。

①統合先がなぜ、柱本小学校ではなく三石小学校なのか。柱本小学校はなくなるのに、三石小学校は継続できるのか。どういう基準で選ばれたのかがわからず、納得できないので、柱本小学校は残してほしい。

②統合されてなくなる側になる学校が複数ありますが、なくなる側もかわりない質の教育環境を提供してもらえるのか。柱本小学校の校庭の遊具、ブランコやシーソーの劣化が危険を感じるレベルなのに、他校は修繕されたと広報で知った。なくなる学校だから修繕してもらえないのではないかと統合前から統合について不安がある。

③学校の多くが避難場所としての大切な拠点だと認識していますが、統合すると何校かが廃校になり避難先がなくなるのでしょうか？また、廃校になっても避難先として残るのであれば維持、管理が必要となるはずですが、その場合はどうなるのでしょうか？

以上、よろしくお願いします。

(教育委員会)

①再編統合後の学校の場所については、必要な教室数、再編統合後の児童の通学条件を考慮し、学校の場所は三石小学校を考えています。

②学校の再編統合により廃校となる学校に関する施設整備についてですが、再編統合までの期間は、学校として児童が学びを行う場としての環境を維持する必要があります。このため、学校運営に必要と考えられる改修等は、再編統合を予定している状況であっても実施

していくこととなります。なお、遊具については、点検の実施や、計画的な修繕対応などによる維持管理に取り組んでいるところです。

③廃校後の跡地活用については、地域の意見を聞きながら、最適と考えられる活用方法を検討していく予定です。維持管理の方法や具体的な内容については、今後検討を進めてまいります。なお、再編統合により学校が廃校となった場合も、学校体育館の避難所としての利用は継続する方針です。

5. (二次元コード)

三石小より柱本小の方が広いし、こども園も新設されている。なぜ三石小なのかと思う。

(教育委員会)

再編統合後の学校の場所については、必要な教室数、再編統合後の児童の通学条件を考慮し、学校の場所は三石小学校を考えています。